

# 美術館準備班だより

― 作品紹介 (二十一) ―

小杉未醒

「ドレスデン」

一九一三(大正二)年

紙、水彩

ドイツの東南部、エルベ川の畔の古都ドレスデンは、十六世紀以降、ザクセン王国の首都として繁栄し、第二次世界大戦中には連合軍の空爆により徹底的に破壊されましたが、現在はまだどおり復旧され、ヨーロッパの中でも、最も美しい都市の一つといわれています。また、バロック様式による壮麗な建造物と、そこに集められた数々の美術工芸品もよく知られており、多く高等教育・研究機関が集中した「芸術と文化の都市」としても有名です。今回ご紹介する水彩画は、大正二年(一九一三年)の十一月に小杉未醒が、このドレスデンを訪れたときに描いた作品で、画面の右側に「DRESDEN 二、十一」という年記と未醒のモノグラムが書き入れられています。小杉未醒は大正二年の二月からパリに滞在し、同年十二月にシベリア鉄道経由で帰国していますので、おそらく、その帰途、ドイツに立ち寄ってドレス

デンを訪れ、この作品を描いたのでしょう。

ドレスデンには、ラファエロやレンブラントの名品が収められた、ドイツで最も重要な美術館の一つとされる絵画館があり、のちに著書の中で西洋美術に関する確な批評をのこしている未醒としては、当然、そのような絵画館も訪れたと思われる。そして、その絵画館のあるツウインガー宮殿や、フラウエン教会、ホーフ教会など、町中には前述のバロック様式による壮麗な建築が数多く建ち並んでおり、この作品においても教会らしき大きな建物の前の公園で、木の下にたたずんでいる子供と、二羽の鳩が描かれています。

ですが、未醒は、あえてそのような建築の細部を描かず、なんの変哲もない大きな木を画面の中心的なモチーフとして描きました。このような構成は、後年の風景を描いた日本画とも共通するものであり、また、褐色を全体の基調とし、淡い色彩だけでまとめあげた手法からは、少しあとにヨーロッパに渡った大正期の日本画家たちとの影響関係も見て取れます。そのような意味で、たいへんめずらしい作品ですし、画面の中のアクセントとして子供の赤い上着と青い長靴を配した工夫などにより、サイズは小さいながらも、絵画としての完成度も十分な作品として仕上がっています。



## 第四十六回

# 『社会を明るくする運動』

## 標語審査結果

主催

日光市教育委員会  
日光保護区保護司会  
日光更正保護婦人会

### 〔小学生の部〕

#### ◎最優秀作品

あいさつで 結ぶ笑顔と 心の輪 (所野小 植木聡彦)

#### ○優秀作品

ごめんねの 勇気一つで 仲良しに (所野小 坂井研司)

#### ☆入選作品

さかせよう 思いやりから 笑顔の花を (小来川小 佐藤弥生)

声かけて 友情の花を 広げよう (野口小 上山光洋)

よいことは 恥ずかしがらずに 堂々と (清滝小 池田一翔)

思いやり いたわる心で 住みよい社会 (中宮祠小 山崎 慶)

朝一番 笑顔であいさつ 明るい社会 (安良沢小 高木 梓)

つなぎあう 手と手でささげよう 明るい未来 (日光小 野澤幸世)

### 〔中学生の部〕

#### ◎最優秀作品

作ろうよ 笑顔の花が 咲く街を (中宮祠中 福田祥子)

#### ○優秀作品

おはようど 言える笑顔の町づくり (東中 青木享子)

#### ☆入選作品

思いやる あいさつ一つで 明るい社会 (小来川中 大橋美代子)

あいさつは 社会を育む 第一歩 (東中 神山光伸)

豊かさは すべての人の 笑顔から (日光中 伊谷美紀)

温かい 心で築こう 明るい社会 (日光中 桜井愛衣)